日本大学東北高等学校同窓会会報

桜朶 OUDA

NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1957

第21号



現存する旧木造校舎（南門付近）

発行日/2023年12月25日
発　行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原１
http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com
編　集/日本大学東北高等学校同窓会桜朶編集部



























～～～ コロナ禍をくぐり抜け新時代へ! ～～～

①令和4年度卒業式（保護者同伴）　②令和5年度入学式（保護者同伴）　③令和5年度新入生在校生対面式
④令和5年度校内体育大会（女子バスケットボール競技　⑤令和5年度校内体育大会（女子バレーボール競技）　⑥令和4年度校内運動会（玉入れ競技）
⑦昭和30年代運動会風景　⑧令和5年度運動会クラス対抗リレー・応援　⑨昭和61年度校内体育大会（綱引き風景）　⑩令和5年度（同綱引き風景）

会長あいさつ



コロナを乗り越えて

日本大学東北高等学校
同窓会会長
村山　廣嗣　16期生

同窓会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動にご協力ならびにご支援を賜り衷心よりお礼申し上げます。

さてコロナウイルスも一段落し、同窓会においても令和5、6年度定例総会を去る令和5年7月17日に 本校SAKURAホールにおいて開催いたしたところでございます。全ての議案を満場一致で可決いたしました。その後、会場をアカシヤ館に移し懇親会を盛大に開催いたしました。

役員改選においては宗像幸雄氏、吉田勝盛氏、酒井孝昌氏3名の副会長が退任され顧問に選任されました。3名の副会長さんには、長い間会長を支えていただき衷心より感謝申し上げます。特に創立60周年記念式典、本校野球部の甲子園出場などにおいてご尽力を賜り、ありがとうございました。今後は、顧問としてさらなるご指導をお願いいたします。

新たに副会長3名が就任されましたのでご紹介いたします。榊原功城さん（18期生）、大場俊之さん（28期生）、伊藤清郷さん（35期生）、学校より宗像忠典先生（27期生）、会計監査諸越裕さん（21期生）が新任されました。ご報告申し上げます。

ところで同窓会も会員が3万9000余名となり、さらなる発展が望まれております。桜朶20号でご案内した通り、同窓会館資料室設置と令和7年開催予定の70周年記念事業についても準備を進めてまいります。今後とも会員皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、令和6年が皆様にとって輝かしい年になりますようお祈り申し上げます。

学校創設の歴史

平成元年に女子生徒が入学してから本校の歴史の約半分は男女共学となりました。日本大学東北工業高等学校から日大東北高等学校へと校名も変わり、歴史を紡いで時代とともに対応変化し、発展成長をして現在にいたっております。平成元年以降入学された同窓生は本校の創設の沿革、概要はあまり知らない方も多いのではないでしょうか。そこで学校創設の歴史を資料より抜粋して紹介いたします。

戦後、福島県の経済発展と文化の向上のためには、本県の河川を中心とする電源開発を行い、その電力を利用することによって化学工業、機械工業、繊維工業を発展させることが必要であった。【中略】昭和22年日本大学専門部工科が東京から現在の地に移転、昭和24年に日本大学第二工学部となり、県民の工業教育に対する期待がますます高まる中で、本校は建設.機械.電気.工業化学の工業科と普通科を持つ日本大学東北工業高等学校として昭和26年4月15日創設された。その後土木科と建築科を新設。普通科も1学級から3学級に、さらに6学級と学級増、定員増を行い、昭和53年4月学校名を日本大学東北高等学校と改称した。また、平成元年度には普通科に女子が入学、普通科をIコースとⅡコースに分けた。さらに平成6年度以降、工業化学科を廃止、土木科も廃止した。普通科は平成12年度から学則定員を480名とした。平成14年度、建築科、電気科を廃止して普通科のみとなった。（学校要覧より抜粋要約）

教務主任あいさつ



同窓会の皆様へ

教務主任　秋山　浩樹

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。この度は同窓会会報誌「桜朶」第21号の発行、心よりお祝い申し上げます。私は、1997年4月に本校に着任し、2022年度より教務部主任を務めています。教務部は主に授業や成績に関する業務、年間や月間の行事計画の立案、入学式・卒業式等の企画・運営などを担当しています。今号では「現代社会が求める高校教育の役割と本校の現状」について、教務部の立場から同窓生の皆様に報告させていただきます。

近年、高校教育は、SDGsやSociety 5.0などの社会的課題に対応できる人材の育成、教科の枠を超えた学びや先端技術・デジタル技術の活用力を備えた人材の育成が求められています。それらの目的を果たすために、生徒自身が能動的に学習に参加し、生徒が自ら課題を発見・解決する能力や仲間と協働する能力を身につける「アクティブラーニング」を広く導入することが推奨されています。また、生徒一人ひとりにタブレットやノートパソコンなど機器を配備し、生徒が日常的に自由にインターネットにアクセスして必要な情報を得たり、クラウドや学習支援ツールを使って学習したり、場所や時間を問わず学習を続けられる「ICT教育の充実」が推進されています。

本校では、2017年度4月よりⅡコース入学生へのiPad配備を導入し、2022年度4月に全校生徒への配備が完了しました。他校に比べいち早く「教育のICT化」に着手したため、現在の教職員のICT機器の活用スキルは非常に高いと言えます。さらに、2020年度より新校舎での学校生活がスタートしました。新校舎は全教室にプロジェクター・電子黒板等が完備されているとともに、全館でWi-Fiの使用が可能であるなど、ICT教育を推進する環境が整っています。それらの環境を活かして、生徒達は入学時より個人・グループで様々なテーマの探究活動を行い、社会的課題に対応できる幅広い教養、思考力・表現力、協働する姿勢を高めています。特に、日本大学工学部との連携による「ロハス探究」では、生徒達のグループ探究活動を工学部の先生方に対面・オンラインのハイブリッド方式でサポートしていただき、「高大連携教育」による専門的・学際的な学びを実現しています。

以上のように、日本大学東北高等学校は創立より72年の歴史を経て、「自主創造・真剣力行・忠恕の心」という教育理念に基づき、能動的な学習態度やデジタル技術などの現代社会に必要とされる力を育む学校になるべく進化を続けています。皆様の後輩の学びの充実のために、なお一層のご協力を賜りますように心よりお願い申し上げます。

高校時代の思い出

母校からもらった明日へのチカラ

昭和53年3月普通科4組卒25期生　**千代 貞雄**氏

4年前の台風19号による洪水被害で、「高校の歴史資料も損失してしまった」とのことを会報で記憶していましたので、手元にあった学生時代の手提げカバンを寄贈したいと連絡を差し上げたところ、後日同窓会ご担当の髙橋敏行先生と向田祐樹先生にご対応いただき、外観がブラウンのモダンな新築校舎を訪問見学させていただきました。

幅の広い廊下と階段、高い天井で解放感にあふれ、いかにも創造性を高める感じがしました。無理を申し上げ、学生時代所属していた美術部の活動も見せていただきました。

美術室には顧問の先生のもと、部員数名が制作に励んでおり、先輩方の志を引き継ぎ活動が継続されていることに感動しました。窓際には、45年前の木炭デッサンで使用した石膏像と思われるものがまだ残っており、懐かしく思いました。

高校時代描いた鉛筆画を2点ほど持参し部員の生徒さんと歓談させていただきました。これからも美術部の活動継続と発展を祈念します。



私は高校卒業後、隣接する日本大学工学部に進学し、大学卒業後、仕事とは別に工学部校友会の幹事も務めさせていただき30年を迎えます。

大学と工学部校友会の活動では、毎年学園祭（北桜祭）開催に合わせて母校を訪ねる会を開催しており、卒回を限定し順次卒業生をご招待し、多くの校友に母校を訪問いただき、大学の今を感じていただいています。

今回の“私にとっての母校日本大学東北高校（当時日本大学東北工業高校）を訪ねる会”では、母校と教員のみなさん、美術部員のみなさんに、“学生時代を振り返る機会とチカラ”をいただきました。

母校や先生方、後輩学生との対面は何か前向きな姿勢への力をもたらすのかもしれません。

高校時代一年時には故塩谷郁夫先生、二・三年次は猪腰嘉勝先生の担任で、美術部では古橋栄吉先生に大変お世話になりました。

卒業後、クラスや美術部の同級生にお世話になったり、ご迷惑を掛けたりもしましたが、今でもお付き合いいただけてありがたいことです。近くにあって、遠い母校だと思っていましたが、今回の訪問で一気に身近な存在になりました。ありがとうございました。

現在、絵の方は御無沙汰ですが、折を見て運動を兼ね昭和40年代の愛車で“阿武隈川みちのくサイクリングロード”を、母校を横目に往復約3時間半で玉川村の乙字ヶ滝まで走っています。自分の力で移動する満足感が魅力です。





母校での3年間で得た教訓



平成26年3月Ⅱコース12組卒61期生
大橋 俊則氏

母校で過ごした3年間は、とても密度の濃い時間でした。会報に寄稿させていただくにあたり思い返してみると、想い出の数々が脳裏に浮かび上がります。自分の良さを引き出し、鍛え、育ててくださった学び舎に感謝の意を表しつつ、数ある思い出の中から幾つかを選んで、寄稿させていただきます。

1.「全部やってみろ!」

私は興味関心が広い方で、一旦広く挑戦してみてから、幾つか特定の分野を深めていきたいという性格でした。一方で、高校時代前半は、勉強も部活もその他の課外活動や将来の進路も、広げてみるばかりで粘り強い深ぼりが出来ていませんでした。

そんな時に、高校3年間お世話になった担任の秋山先生から、「全部やってみろ!」という言葉をいただきました。関心を広げるばかりで、のめり込まず、ぼんやり考えるばかりで、実際に手を動かしていなかった自分にとって、その言葉は喝でもあり、また肯定感を与えてくれる言葉でもありました。

そうか、全部やっていいんだ、寧ろ全部こなしてこそ自分自身だ！と高校生活に気合が入った瞬間であり、今でもその言葉を大切にしています。

また「全部やる」といった姿勢を応援してくださった部活動の三浦先生や、Ⅱコースで教えてくださった先生方にとても感謝しています。その後の大学生活、社会人生活においても、大事にしている自分らしい姿勢となりました。

2.アカシヤ祭

高校入学当初一番に精を出したのが、アカシヤ祭です。クラスで力を合わせて、ゲストを楽しませる企画を考

えました。

目玉企画の一つが、担任の秋山先生を主役にした「某職業人に密着して生き様を紹介するテレビ番組」の様な作品の作成でした。

元々、高校時代は映画監督を夢見ていた為、この企画で一旗あげてやろうという情熱をもって取り組みました。結果、先生を知るゲスト、知らないゲストの双方から、大変好評いただき(という記憶)、人を喜ばせる面白さ、仲間と力を合わせる楽しさを味わった経験となりました。

今振り返ると、高校時代の何かを取りまとめてみるといった経験を通して、リーダーシップを育んでいただいたのだな、と感じています。

3. 水泳部

元々運動が好きで関心が広い私は1年生の終わりの頃から"もじもじ"し始め、部活動への参加を考え始めました。Ⅱコースは授業が多い為、チームスポーツは難しいのではと考え、水泳を思いつきました。

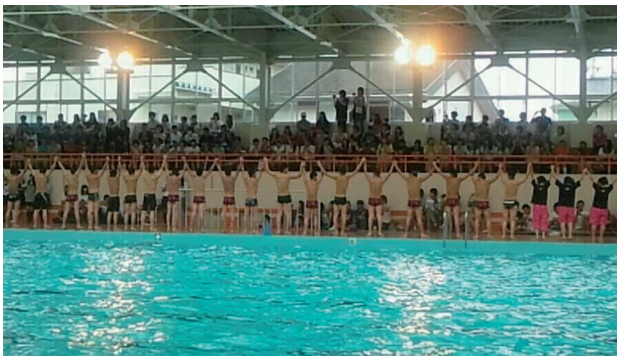
先輩方、同期の皆さんに温かく迎え入れていただいたのですが、超強豪チームで、かじった経験程度の私はついていくのがやっとでした。

超・長距離を泳ぎ続ける合宿も経験しましたが、心が折れた記憶があります。水泳という分野を極めてきた仲間達のかっこ良さに憧れを感じ、自分も頑張らねばと刺激をもらいました。

当時、合宿で泳ぎ続けている時に、ヘトヘトの折り返し地点で、一瞬顔を上げたときに顧問の三浦先生から言われた一言が印象に残っています。「大橋、なんで泳いでるんだ?」その瞬間の自分は「・・・」でしたが、この言葉は、今も仕事で意識していて、目の前の仕事をなんの為に、誰の為にやるのか、目的は何なのか、本質を考えてから取り組む姿勢に繋がっています。

水泳では活躍できなかったものの、毎年続くアカシヤ祭でのシンクロでは、部長と一緒にチームを纏め、大歓声をいただき、青春の絶頂を味わわせていただきました。

部長と一緒に取り組んでくれた仲間達、応援してくれた顧問の先生に感謝しています。



4. 英語スピーチコンテスト

自分の武器である英語を活かし、「全部やってみろ!」という先生の後押しを受けて、全日大付属校の英語スピーチコンテストに2年生、3年生と挑戦させていただきました。

外国人講師のジュローム・クヴァジェ先生やジュディ・ダッチャ先生と一緒にスピーチの内容を考えるところから、毎日練習しました。自宅に帰っても、スピーチを磨き続け、3年生の時に悲願の優勝を経験しました。

あの時に鍛えた表現力、発表力は今の社会人生活に大いに生きています。英語関係では、日大付属校向けイギリスケンブリッジ大学研修にも参加させていただきました。付属校の仲間達とも交流でき、日大付属校ネットワークの魅力を感じた経験です。



5. 大学入試

幅広い挑戦をさせていただいていた中、危機感をもっていたのが大学入試です。

3年生7月に部活動やスピーチコンテストといった青春の3分の2ページを終え、いよいよ本腰を入れて取り組まなければ、まずいといった状況に追い込まれていました。

本命、早稲田大学への合格は果てしない距離にありました。Ⅱコースの先生方からのご指導の下、仲間達と切磋琢磨する中で、今は全部やる状態から、一つをやり切らなければならない、自分の為にやり切ろうと心を決めました。

結果、我武者羅ではありましたが、課外活動で鍛えた精神力や継続力を活かして、23時まで勉強、3時に起床というスケジュールを半年間続け、志望校に合格しました。振り返ると、入学当初の性格や精神では、毎日コツコツといった理想的な勉強の仕方はできなかったと思います。様々な側面で、学び舎に鍛えていただいたからこそ、希望する進路を達成できたと考えています。

6. 結びに

自宅から安積永盛駅、そして母校まで通った3年間がとても感慨深いです。現在、私が三菱商事に勤務できているのも母校のお陰と感謝しております。

毎日仲間達と日々の出来事を話しながら、一緒に勉強して過ごしたあの通学時間は、今思えばかけがえのない時間でした。時が経ち、各々活躍する環境は変わりましたが、母校で過ごした時間は大切な宝物です。

学び舎で得た教訓を胸に、これからも日々一人前の社会人を目指して精進して参ります。

受章おめでとうございます



瑞寶小綬章

平成15年11月3日に受章されましたが、
この度ご紹介させていただきます。

神戸　徳蔵先生

長年の鍍金工業技術の研究開発と、その普及発展活動並びに教育の功績が認められ、めでたく瑞寶小綬章を授与されました神戸先生をご紹介します。

神戸先生は群馬県富岡高校のご出身で、昭和31年日本大学工学部工業化学科を卒業後、その年の4月より3年間日本大学東北工業高等学校で教鞭を取られました。

その後メッキの研究者として民間企業の研究所をはじめ、国家公務員として政府系研究所の責任者を歴任され、平成6年3月末に国家公務員を退職された後、その年の8月30日全国鍍金（メッキ）工業組合連合会の理事に就任されました。東京都鍍金工業組合環境科学研究所所長就任と高等職業訓練校金属表面処理系教務主任に就任。その後も東京都鍍金工業組合高等職業訓練校の教頭職も担当されました。

表彰歴としては

昭和59年4月18日　注目発明選定賞
「無電解メッキ液の再生方法」（科学技術庁長官）
昭和61年2月21日　金属表面技術協会技術賞
平成5年3月17日　科学技術賞
平成14年2月27日　表面技術協会功績賞等を受賞しておられます。

90歳を過ぎた 現在も元気にご活躍中の神戸先生をお祝い申し上げるとともに、ますますのご長寿を心よりお祈りいたします。



天皇陛下からの御下賜品



瑞宝双光章

昭和43年3月工業化学科卒 15期生

熊田　徳雄 氏

郡山市出身。日大東北工（現日大東北）高卒。1968（昭和43）年に県巡査を拝命。いわき中央署久之浜駐在所地域専門官で退職した。「受章はうれしい。後輩には日々誇りを持って精進してほしい。」



瑞宝単光章

昭和43年3月電気科2組卒 15期生

山下　文夫 氏

相馬市出身。日大東北高、日大工学部卒。1972（昭和47）年に神奈川県警巡査を拝命。藤沢署地域課班長で退職するまで、地域の防犯に尽力した。「父の後を追い警察官になり、38年間務められ満足している。」



瑞宝単光章

昭和48年3月建築科卒 20期生

生田目和信 氏

二本松市出身。日大東北高卒。1975年に当時の岩代町消防団に入団。約40年間、地域防災やポンプ操法の訓練などに心血を注いだ。「団員と妻に支えられ、地元の安全を守る活動を続けてこられた」と感謝を口にする。



瑞宝双光章

昭和50年3月普通科3組卒 22期生

杉田　勝典 氏

「住民の期待に応えられる強い組織づくりに力を注いだ」。同僚の殉職を受け、隊員の安全確保を第一に心がけて指揮を執った。郡山市出身。日大東北工（現日大東北）高、日大工学部卒。1979（昭和54）年に消防士となり、郡山消防署喜久田基幹分署長などを務めた。郡山消防署長で退職した。東日本大震災発生時は避難者の緊急被ばくスクリーニングや除染活動に奔走した。「家族、同僚に心から感謝している」と喜びをかみ締めた。



瑞宝単光章

昭和55年3月機械科1組卒 27期生

藤宮　利正 氏

郡山市出身。日大東北高卒。1980（昭和55）年に陸上自衛隊に入った。福島駐屯地で山岳遭難者の捜索をはじめ、記念行事の調整などに当たった。「36年間、職務に専念できたのは家族の支えがあってこそ。」

※福島民報新聞社より提供

令和5年度　母校のトピックス

令和4年度 卒業生合格状況

令和4度卒業生総数455名　※延べ人数

日本大学 296名	国公立大学 42名	他私立大学 237名	専門学校 46名	就　職 6名

◆ 日本大学

法	25	経済	23	芸術	6	危機管理	3	生産工	22	生物資源科	20
文理	27	商	18	国際関係	15	理工	38	工	86	短期大	4

◆ 国公立大学

山形大学	7	福島大学	14	宮城大学	1	福島県立医科大学	5	東京都立大学	1
東京学芸大学	2	会津短大部	1						

※詳細は学校HPをご覧下さい。

◆ 私立大学

東京理科大学	4	明治大学	2	立教大学	1	中央大学	5	青山学院大学	1
法政大学	2	同志社大学	2	明治学院大学	2	成蹊大学	2	東京薬科大学	2

ほか

令和四年度同窓会賞

三世代賞



安部 康大　渡辺 里奈
陰山 弘暉　吉田 祥眞
髙橋 優美　榎本 理沙
遠宮 綾乃　相樂 一誠

受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。令和3年度までに72名の受賞があり、今回の7名を合わせると計79名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。

令和4年度 アカシヤ会学業努力賞



今井 太一（1組）　和泉 里奈（10組）
菊池 聖真（1組）　岩崎 航大（11組）
有田 卓生（4組）　篠原 諒（11組）
大内 心（4組）　高橋 柊（11組）
禹 穣熙（5組）　栁沼 尚希（11組）

令和4年度 アカシヤ会スポーツ・文化功労賞



菊池 聖真（1組）　大森陽歌里（2組）　緑川 詩穂（7組）
齋藤 慧舟（1組）　神野 雅（2組）　石井さくら（8組）
佐藤 武蔵（1組）　岩谷 菜穂（3組）　鈴木 良輔（8組）
佐藤 唯（1組）　面川 未来（3組）　千木崎華代（9組）
佐藤 優成（1組）　佐藤ひかり（3組）　穂積 美晴（9組）
田中 凛葵（1組）　佐藤 美羽（3組）　酒井 里凪（10組）
根本 穂波（1組）　澤井亜美花（3組）　三瓶 祐紀（10組）
橋本 羽奈（1組）　先﨑 宇音（3組）　鈴木 滉大（10組）
星 友哉（1組）　小砂子菜月（4組）　増子 琴子（10組）
箭内 気吹（1組）　栁沼 凛花（5組）　水野谷 輝（10組）
山下日南太（1組）　佐藤 匠（6組）　國分 純（11組）
上野 遥都（2組）　増子はる菜（6組）
大槻 真子（2組）　赤松 昌（7組）

令和四年度　退職された教職員

※敬称略



添田 恒夫（そえた つねお）【国語科】
勤務期間:平成30年4月1日～令和5年3月31日
勤続年数:5年



田宮 知子（たみや ともこ）【国語科】
勤務期間:令和元年4月1日～令和5年3月31日
勤続年数:4年



鈴木 菜月（すずき なつき）【数学科】
勤務期間:令和2年4月1日～令和5年3月31日
勤続年数:3年



八巻 淑子（やまき しゅくこ）【国語科】
勤務期間:令和2年9月1日～令和5年3月31日
勤続年数:2年5か月



佐藤 完太（さとう かんた）【地歴公民科】
勤務期間:令和3年4月1日～令和5年3月31日
勤続年数:2年



伊藤 遼（いとう りょう）【英語科】
勤務期間:令和4年4月1日～令和5年3月31日
勤続年数:1年



小林 美智子（こばやし みちこ）【事務課】
勤務期間:平成29年2月1日～令和5年1月31日
勤続年数:6年



伊藤 靖子（いとう やすこ）【事務課】
勤務期間:令和2年3月23日～令和4年12月31日
勤続年数:1年9か月

全国大会2位という素晴らしい活躍をしてくれた3年生2人をご紹介

◆国体（燃ゆる感動かごしま国体）走り幅跳び　決勝2位
鹿児島県立鴨池陸上競技場白波スタジアム
曲山　純平君（福島大学付属中学校出身）

◆令和5年度全国日本高校生ピストル射撃競技選手権大会
ビームピストル少年男子60発競技　決勝第2位
須藤　巧君（棚倉中学校出身）

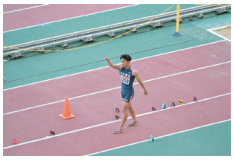
1）曲山純平さん

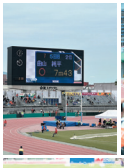


彼は福島市からの電車通。群馬県の強豪校陸上部からの誘いを蹴って日大東北の陸上部に入部。本人は親元で競技を続けたいとの思いが強かったことと、けがなどの時に十分に保護者のサポートが受けられると考えたのが、入学の理由だった。同級生箭内君の背中を追いながら切磋琢磨してきたこともあり、1・2年の時は全くと言って良いほどに壁を感じることなく競技に打ち込めたという。

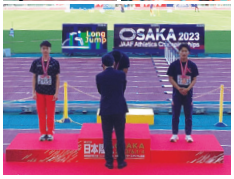
ところが、今年は様子が違っていた。陸上部所属の後輩の存在にプレッシャーを感じていたのだ。中1の時から各種大会で、毎回全国大会に出場していた彼が、周囲の期待とは裏腹に、まさかのインターハイ予選落ち。自分のパフォーマンスを10点満点中9点だったと振り返る。残りの1点は何かと伺ったところ、アグレッシブな跳躍とは逆の「失敗しないように…」を意識しすぎたとのこと。後輩に負けたストレスから、初めてのスランプを経験し、自分らしい跳躍を忘れ、後輩に「負けたくない!」という思いにとらわれていたのだ。

すべてのプレッシャーを見事に跳ね返し、「かごしま国体」では決勝2位に輝いた。記録は7m43cm。1位との差はわずかに2cm! 悔しさに唇をかみしめる。高1の春3月の「大阪室内陸上競技大会」では7m14cmで優勝を果たした曲山選手。すでに大学への進学が内定しており、年明け2月の大阪大会やアンダー20の大会にも意識が向き始めている。今以上にフィジカル・メンタルともに磨き上げ、世界に挑戦したいという夢も語ってくれた。









「両親への感謝はもちろん、顧問の先生やOB・OGの方々にも応援していただいていることを感謝申し上げたい。」とメッセージを残してくれた。曲山選手の今後益々の活躍を期待し、応援したい。

2）須藤　巧さん



彼には6歳上の日大東北OBのお兄さんがいる。小6の時、文化祭でライフル射撃に集中するお兄さんの後ろ姿を見、それに憧れて日大東北に入学した。もちろん入学と同時に迷うことなくライフル射撃部に入部する。ところで、みなさんはライフル射撃についてご存じだろうか。一口にライフル射撃といっても奥が深い。話を伺って初めて知ることばかりだった。まず、射撃には、筒の長いライフルと短いピストルがあること。さらにエアーとビーム（光でセンサー入りのターゲットを照らして着弾位置を表示させる）があること。さらにエアライフルは所持するのも撃つのも手続きが必要で、その許可には年齢制限があること等々。

さて、須藤選手はライフルではなくピストルで勝負している。その理由は簡単だ。ライフルよりピストルの部員が少ないので、射座（ビームピストルを撃つ電子の的）で練習できる時間が多くとれるからとのこと。なるほど、単純明快な答えだ。

競技予選では45分間に10m先の電子的に向かって60発射撃する。その的の中心点が10.9点、外にいくにつれて、9点、8点、7点…となっている。必ずしも的の中心に当たらなくても中心にかすっていれば10点というのがポイント。10.0～10.9点の10点圏内の的の大きさは直径1mmと非常に小さい。

予選で点数の高い順から8人が決勝（ファイナル）に進出して点数を競う。ファイナルに残った8人は一斉に射座に向かって50秒以内に5発+5発を撃ち、点数の低いものから1人脱落して、次のステージを7人で競う。それを繰り返して、最終的に2人が残るというわけだ。須藤選手は右目、右利きの選手。ピストルの長さは約30cm～40cm、重さは1.5kg。決して軽くはない。腕の力に加え、集中力と忍耐力も必要だ。

最終選に残った須藤選手と対戦相手のスコアは、同点1位のまま静かに射座へ。

第1射目…須藤選手7点、 対戦相手8点
第2射目…須藤選手10点　対戦相手10点
この時点で試合終了!

張り詰めた緊張感から解放される瞬間だ。須藤選手の総合スコア232.1ポイント。一方優勝した長崎高校の内田選手の総合スコアポイントは、233.3ポイント。その差なんと、1.2ポイント。仮に第1射目で10点を出していれば、優勝は須藤選手の手に…。今大会では本気で1位を狙っていただけに悔しさが残る。

練習時の彼のベストスコアは565点。1回だけ高2の時に出したことがある。9点を60回連続して出すと、540点。1年生の最後に出した記録だ。しかし、この550点の壁を超えるのに10か月以上かかっている。これがライフル射撃の奥深さと言われるゆえんかもしれない。

実は須藤選手の進路も内定している。彼は大学でも射撃を続ける覚悟だ。目標は570点。このスコアを打ち出して、国体で1位になる。本気でピストル日本一を狙っている。ライフル射撃部での生活は毎日が楽しく、仲間との会話の話題は尽きない。射撃のこと、ゲームのこと、そしてテストの点数などなど…。部活動からは、楽しみながら熱中して打ち込むことの大切さを学んだと笑みを浮かべる。部活動の仲間に感謝、何より顧問の猪山先生にはメンタル面で支えてもらったことを感謝したいと付け加えて話を終えた。



3月、福井県立ライフル射撃場開催の「全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会」BP60Jで3位入賞を果たした時の写真。（日大東北HPより）

今回のインタビューに快く応じてくれたお二人に、心より感謝申し上げます。　（文責：編集部TT）

部活動OB会周年記念式典

硬式テニス部（旧庭球愛好会）

創部50周年記念事業開催

昭和48年10月に誕生した硬式テニス部が、今年10月で創部50周年の節目を迎えることから、記念事業として、去る10月21日（土）母校のテニスコートにおいて「交流試合」が開催された。現役部員20名を含むOB・OG45名が参加。当時愛用のご自慢のラケットを持ち寄り、久しぶりに後輩たちとの試合を通して、参加者たちは爽やかな汗をかいた。また輝かしい戦績を残した先輩たちからは、青春時代の部活動秘話などを交えたアドバイスなどもあった。また、同じ日の夕方に「村さ来桑野店2階」に会場を設け、駆け付けた43名は、ゆったりとした時間の中で、創部当時からの資料・写真のスライドショーを鑑賞したり、若かりし頃の大会での活躍をはじめとした「武勇伝」で大いに盛り上がり、笑顔溢れる懇親会となった。花里昌昭教頭に寄付金の贈呈があり、後輩の活躍を祈り、テニス部の今後益々の発展を誓い合った。



高校生とOBメンバー
学校テニスコートにて集合写真



懇親会集合写真　村さ来桑野店



福島民報

創部50年 発展誓う

日大東北高硬式テニス部 OBと交流試合

郡山市の日大東北高硬式テニス部が10月、創部50周年を迎えた。21日に記念事業として現役・OBの交流試合と懇親会が市内で催され、参加者が部のさらなる発展を誓い合った。交流試合は同校で行われ、現役部員約20人を含む45人が参加した。OBは在学中に使用していたラケットや写真など思い出の品を持ち寄った。

村さ来桑野店で開いた懇親会には43人が出席した。創部当時のメンバーの一人だった金沢裕OB会長が「今日は創生期からの歴史を振り返ってほしい」とあいさつ。2009（平成21）年に全国高校総体（インターハイ）女子団体に初出場した時の顧問だった花里昌昭教頭が「今後も新たな歴史をつくるテニス部を応援したい」と語った。卒業アルバムの部員の写真を、年代順にスライド上映した。金沢会長が懇親会費の一部を寄付金として花里教頭に手渡した。

硬式テニス部は1973（昭和48）年10月、当時2年生の金沢会長ら5人で創部した。郡山市と県中地区で男子の創部は初めてだった。卒業生は男女合わせて300人以上。インターハイの団体戦は男子が1度、女子が8度の出場経験がある。

創部50周年を祝い合う出席者

花里教頭に寄付金を手渡す金沢会長（右）

テニス部50周年　福島民報新聞より

バドミントン部

創部50周年記念式典開催

令和5年8月11日（金）午後6時より郡山ビューホテル・アネックス3階「麓山」の間で、本校バドミントン部後援会（OB・OG会）の創部50周年を祝う記念式典が開催された。この日は現役部員を含むOB・OG34人が出席した。この日の総会で幹事から新後援会会長に就任した千葉康裕氏の挨拶の後、新副会長の小堤知子氏の乾杯の発声後、終始和やかな雰囲気の中で会は進行した。

歴代顧問の斎藤栄一先生、渡邉弘幸先生が祝辞を述べ、バドミントン部の髙橋敏行顧問が近況を報告した。現役部員には後援会より、記念品のiPad（スマホ兼用）三脚が男女部長副部長4名に贈られた。総会で会長を退任し名誉会長に就いた國分仁一郎氏を功労者として表彰した。サプライズとして國分名誉会長には、1）夫人からの感謝のメッセージと、2）髙橋顧問から歌のプレゼントがあった。松山千春の「長い夜」の替え歌で「♪バドに燃える～心ひとつ…」の場面では名誉会長もステージに上がりデュエットとなり、会場は大いに盛り上がった。

後援会は1972（昭和47）年にOB会、1992（平成4）年にOG会を創設した。昨年度にOB会が50周年、OG会が30周年を迎えた。後援会の会員数は340人を数える。会員が互いの親睦を深め、半世紀の歩みを振り返り、現役部員の活躍を祈るとともに、その支援継続を誓い合った。



記念式典



名誉会長とのデュエット



福島民報新聞より



午前中に行われたOB・OG大会の集合写真

定例総会

今年7月17日(月)、午前10時30分より、SAKURAホールにて2年に1度の定例総会が開催された。参加者は50名。宗像幸雄副会長の開会のことば、村山会長のあいさつ、佐々木校長に代わり花里教頭のあいさつと学校の近況報告のあと、審議に入った。議事進行は会場から選出された諸越裕氏。スムーズな進行により、令和3・4年度の会務報告と決算報告、会計監査報告がなされた。引き続き令和5・6年度の事業計画案と予算案を審議し、可決された。役員改選が行われ、長年にわたり副会長を務めた宗像幸雄氏、酒井孝昌氏、吉田勝盛氏の3名は顧問となり、新たに榊原功城氏、宗像忠典氏、大場俊之氏、伊藤清郷氏が副会長に選任された。総会後はアカシヤ館多目的ホール1階食堂にて懇親会が行われた。





★主な役員は次の通り。

会　長：村山　廣嗣(16期生)
副会長：榊原　功城(18期生)　杉山　隆彦(20期生)
　　宗像　忠典(27期生)　大場　俊之(28期生)
　　伊藤　清郷(35期生)
会計監査：柴田　広(19期生)　諸越　裕(21期生)
【事務局】
事務局長：向田　祐樹(37期生)
事務局次長：菅野　理(41期生)　有馬　理恵(44期生)
　　佐藤　絢香(58期生)
会　計：松崎　一寿(44期生)　佐藤　大樹(54期生)
【桜朶編集部】
編集長：髙橋　敏行(26期生)
編集員：伊東　伸泰(35期生)　大山友希奈(61期生)

郡山支部総会開催

新支部長に藤原賢一氏

昭和50年3月普通科4組卒22期生

今年5月25日(木)、郡山ビューホテルアネックスで開催され、役員改選で新支部長に藤原賢一氏が選ばれた。任期は2年。郡山市内在住の約60人が参加。令和5年度のゴルフコンペ開催などの事業計画を決めた。総会後は懇親会も催され、参加者たちは母校のより一層の発展を祈念しながら、懐かしい話題に旧交を温める有意義な時間を過ごした。

支部長を除く主な役員は次の通り。

副支部長：伊藤　清郷氏
　　二瓶　重信氏
　　福内　浩明氏
　　鈴木　優樹氏
　　栗原　晃氏
事務局長：金澤　裕氏



郡山支部長に藤原さん選任
日大東北高同窓会
高同窓会（アカシヤ会）郡山支部の総会は、日大東北25日、郡山市の郡山ビューホテルアネックスで開かれ、役員改選で新支部長に藤原賢一さん＝写真＝を選んだ。
親睦事業の実施などを決めた総会
任期は2年。約60人が出席した。ゴルフコンペの開催など2023（令和5）年度の事業計画を決めた。懇親会も開かれ、出席者は母校の一層の発展を願いながら親睦を深めた。
支部長を除く主な役員は次の通り。
副支部長＝伊藤清郷、二瓶重信、福内浩明、鈴木優樹、栗原晃▽事務局長＝金沢裕

福島民報新聞より

退職教職員の会 令和5年度

今年6月3日(土)午前10時、令和5年度総会が母校SAKURAホールにて開催された。味川先生の代理として参加された奥様を含め参加者は17名。進行は幹事の斎藤栄一先生。海老名幸男先生の開式の辞、物故会員への黙祷、小山田正宏会長の挨拶、来賓の佐々木稔校長の挨拶と続き、花里昌昭教頭からは学校の近況報告がなされた。令和5年度は小林直喜副会長に加え、新たに 野口哲先生が審議により副会長に選任された。野口副会長の閉会の辞のあと、花里教頭のエスコートにより先生方は、最新デジタル化された教室をはじめとした新校舎を見学した。

また、去る 11月6日(月)の午前11時30分、コロナ禍で途絶えていた「秋季懇親会」がビューホテルアネックス舟津にて開催された。参加者9名は4年ぶりにのランチタイムを満喫し、歓談とともに楽しいひと時を過ごした。





資料のご提供ありがとうございます

桜朶前号の記事(台風19号水害による資料水没)に心を痛め、手元にある資料等を提供して頂いた方をご紹介します。(寄贈・貸与を含む)

★諸越 裕 様(昭和49年3月普通科2組卒 第21期生)
　○廣長威彦氏の画集
　※廣長氏は昭和28年3月電気科2組卒第1期生。郡山市をはじめ全国の古民家を中心に日本の原風景を描き続けた。英国大英博物館に2点の作品が所蔵されている数少ない日本を代表する画家、版画家である。本誌20号に関連記事あり。



★深谷 正由 様(昭和36年電気科2組卒 第8期生)
　○昭和35年の学校新聞のコピー



★千代 貞雄 様(昭和53年普通科4組卒 25期生)
　○在学当時使用していた通学鞄



★金澤 裕 様(昭和50年3月普通1組卒 第22期生)
　○昭和49年度卒業生卒業記念品



※貴重な資料のご提供、心より感謝申し上げます。同窓会事務局では今後も継続して皆様からの資料等のご提供を受け付けます。特に学校の歴史がわかる平成10年までの「卒業アルバム」のご提供をお待ちしております。よろしくお願いします。詳細はホームページをご覧下さい。

恩師を偲ぶ

数学教師　小松基扶先生を偲ぶ
～一期一会の出会いに感謝し、教育姿勢に学ぶ～



昭和53年3年2組卒25期生　嶋　栄吉 氏

先生は、1943年10月に生まれ幼少期を田村郡三春町で過ごし県立郡山工業高校（現郡山北工業高校）を卒業、日大工学部で教員免許を取得後、昭和47年4月1日、日本大学東北工業高校の数学科教員として赴任されました。在職中20回の普通科担任と3回の電気科クラスの担任をされ、更にテニス部・バスケットボール部などの部長・顧問を歴任し、多くの生徒の教育を担って、平成20年3月に定年退職されました。その後、数年前に体調を崩されリハビリに努めていらっしゃいましたが、体調が急変し、緊急手術後入院されていました。闘病中の楽しみはお孫さんの成長で、今年2023年4月8日その孫娘さんの小学校入学式を見届け、満79歳でご逝去されました。

先生の数学の授業の思い出は、我々が授業に飽きると、「大学生になって、仲間と飲み会をする時は連絡をしてくれよ。」とか「結婚式には招待してくれよ、必ず出席するから。」などと良く話してくれたことです。数学の微積分の公式より、この雑談のほうが私は今でも鮮明に覚えています。実際、先生は招待された結婚式にはほとんど出席されて、会場が東京や大阪などと遠方でも出席してくださいました。更に、他の卒業生と結婚式が重なったときは、奥様と分担されたと後になってから伺いました。本当に頭が下がる思いです。

また、地元でのクラス有志の飲み会に夜遅く突然連絡をしても、タクシーで駆けつけてくれました。我々の還暦、先生の退職や喜寿祝いのクラス会など、高校卒業後も我がクラスは先生との交流を深めて来たのです。この仲間との絆こそ先生が残してくれた宝です。

私は高校時代に進路を決めかね、東京への憧れだけを持っていました。正直に言えば、将来どんな職業に就きたいのかも考えていませんでした。進路指導の折、先生から東京には旧日本大学農獣医学部農業工学科（現：生物資源科学部環境学科）があると教えて頂き、進学しました。大学4年次の卒論研究に味を占めた私は東京大学大学院に進学後、北里大学に就職しました。図らずも同じ教育者となった私は、改めて先生が偉大であったと知りました。

高校生という10代の活気あふれる男子学生は、反抗したり、他人に迷惑をかけたり、学則を破ったりと難しい年頃であったと今にして思います。しかし先生は、決して怒らず、強制もしませんでした。ただひたすら我々が答えを見つけ出すまで待ってくれたのです。これら、生徒を思いやる愛情と姿勢が一番大切なことだと身をもって示してくださったのです。

先生は私にとって、教育者としての手本であり目標となりましたが、いつしか人間としても目標となっていました。現在私も先生と同じ病気でリハビリ中ですが、もう少し先生の後ろ姿を追っていたかったと残念に思います。しかしながら、先生の思いやりに満ちた数々のお話やエピソードは、私たち教え子の心から消えることはありません。
小松先生、本当にありがとうございました。



菊地修三先生へ　お別れの言葉



昭和48年電気科1組卒20期生
國分仁一郎 氏

故、菊地修三先生の御霊の前に謹んで哀悼の辞を捧げます。

今年の7月5日に施設にてお会いしましたね。10年ぶりの再会にもかかわらず、良く私の名前を記憶して呼んでくださいましたね。「仁一郎君かい?」とニコッとした笑顔の先生を思い出す度、今でもジーンと胸が熱くなります。

日本大学東北高等学校バドミントン部が創部50周年を迎えられたことをご報告に伺い、8月11日の祝賀会への招待をお伝えしたところ、ニコニコされながら首をふられましたね。先生が顧問を引き受けてくださったお陰で、私の高校生活は楽しい思い出しかありません。高校3年生の時、先生と二人きりで県大会に出場したことが一番の思い出です。応援者は先生しかいらっしゃらなかったので、他校の生徒が熱心に応援してくれましたよね。残念ながらベスト8止まりでしたが、満足できる最高の試合だったと思っています。これも温かく見守ってくださった先生のお陰です。

9月15日に祝賀会報告のため施設にお邪魔した時は、奥様とお二人で待っていただき、本当にありがとうございました。帰り際に施設の担当の方から、修三先生ご夫妻と一緒に写真を撮りませんかとお誘いを受けた時は、内心複雑な心境でした。三人とも緊張した笑顔を振りまいて…。それが最後のお別れになってしまいました。

最後に、先生は、「生徒は自分の力で努力し、上手になったのだから、（自分の指導の結果だなどと）決して驕ってはいけませんよ。」と言われました。確かに、頑張っているのは本人ですからね。今でも、教訓として先生の言葉を守って指導しています。

さようなら、修三先生。こころから感謝しております。ありがとうございました。

返信はがき掲載希望コメント

榎本忠氏〈旧姓田母神〉：東京都在住

いつも桜朶ありがとうございます。一面の記事に日本一というガッツポーズの齋藤慧舟選手、本当におめでとう!
私は大のスポーツ好きです。私が在学中は髙橋鉄太郎さんという方がスピードスケートで活躍していたのを記憶しております。ところで、昨年の高校野球は残念でしたが、今年度の卒業生合格状況を見ても分るとおり、日本大学をはじめ国公立大学、私立大学と（すばらしく）全く言うことございません。私は85歳過ぎて目、鼻、耳とそれなりに歳を重ねまして不自由になっておりますが、新校舎で学べるこれからの若い人たちが羨ましい限りです。ガンバッテネ!

安部和由氏：千葉県船橋市在住

日本一となる子供たちが現れたのは素晴らしいことです!

匿名希望：郡山市在住

毎回楽しく読ませていただいています。卒業生の活動がわかって元気になります。今後もよろしくお願いいたします。小説『風船はシャボン玉の中へ』希望!

池宮城晃氏：沖縄県那覇市在住

新しい年となりました。ここ沖縄の元日、二日は初夏のような日差しで正月気分も薄らいでしまいましたが…。
阿部先生の新年の便りによりますと、高橋先生に案内されて新校舎をご覧になった感想を素晴らしい近代的な校舎に変身していましたとありました。
大晦日に届きました同窓会会報「桜朶」20号にあります廣長さんが描かれた母校のスケッチは、私の思い出にあります在校時代そのものの姿で、元は兵舎だったという木造校舎での当時の入学式には演台後方には壁いっぱいの巨大な日の丸国旗が掲げられており、アメリカ統治下の沖縄から来て下宿生活をしていた私には、日大東北高の入学式では恐らくは皆と違っていただろう感慨を胸にした記憶がよみがえりました。あのスケッチは私の原風景です。
高等学校卒業後に東京で報道写真について2年ばかり勉強して沖縄に帰省しましたが、あれから半世紀以上過ぎて、今では会社の責任者をしている長男も昨年12月で50歳となりました。孫は今年中学校に入学です。
沖縄返還や日中国交回復から50年を境として、高等学校時代に志したことも終わったと撮影はやめて、今年からは自分なりに写真をまとめることをしていきたいと思っています。



塩谷 郁夫 先生

こおりやま文学の森資料館
初代館長
元県文学賞審査委員

県文学賞では、2004（平成16）年度から2008年度まで小説・ノンフィクション部門審査委員、2009年度は小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション両部門の審査委員を務めた。

お悔やみ

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

- 塩谷 郁夫先生（国　語）令和5年2月3日　享年90歳
- 小松 基扶先生（数　学）令和5年4月8日　享年79歳
- クヴァジェ寿郎武先生（英語）令和5年9月5日　享年62歳
- 菊地 修三先生（工業化学）令和5年10月21日　享年87歳

●皆さんの近況をお知らせください。
クラス会の呼び掛けや近況報告を会報に掲載することができます。

※会報に掲載を希望する方は、□に✓印をしてください。
□に印がない場合は掲載をいたしません。 □掲載希望

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。
今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、
下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

□ 会報・案内の送付を希望しない。

桜朶編集部よりお知らせ

★学校に関する資料提供のおねがい

引き続き卒業時のアルバムや高校在学中の資料などの提供をお受けいたします。

★次回桜朶22号（2024年12月発行予定）原稿募集!

①高校時代の思い出600～1000字程度。（文字数を超える場合は要相談、併せて写真の提供もお願いいたします。）
②現況報告も募集しております。綴じ込みはがきで「掲載希望」にチェックを入れて投函してください。
※詳しくは桜朶編集部まで。 ☎024-956-8852

★同窓会創立70周年記念事業へのご意見募集!

令和7年（2025年秋）予定の本同窓会創立70周年式典等への皆様のご意見・アイディア等をお寄せ下さい。

★システムエンジニアOB・OGのみなさんのヘルプ募集!

現在、会報誌「桜朶」は紙印刷での発送に頼っていますが、将来を見据え、効率や経費削減の観点から、デジタル化の推進を検討模索中です。つきましては、スマホ・携帯から閲覧可能なシステムに詳しいシステムエンジニアOB・OGの方々からの情報提供をぜひともお待ちしております。母校同窓会維持発展のため、ぜひお力添えをいただけますようよろしくお願いします。
【連絡先】本会ホームページの通信欄からメール、または事務局まで直接お電話いただければ幸いです。☎024−956−8852

編集後記

今年もみなさんのお手もとに桜朶21号をお届けできることを大変うれしく思います。あらゆる活動の自粛要請がなされ、マスク着用とアルコール手指消毒が欠かせず、コロナの恐怖にただただ怯えた期間がようやく終わろうとしています。思い返せば、2019年12月初旬に中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数ヶ月でパンデミックと言われる世界的な流行となりました。2020年1月20日に横浜港を出港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客にコロナ罹患者が出たことは記憶に新しく、あれから間もなく4年目を迎えようとしています。できるだけ学校の今をお伝えするために、表紙には直近の写真（一部昔の写真もあります）を採用しました。21号発行に際し、ご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年が皆様にとって素晴らしい一年となりますように…。
皆様よいお年をお迎えください。

（事務局・編集部一同）

《同窓会のHP（ホームページ）について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜朶OUDA」1号～20号のバックナンバーもご覧いただけます。http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com

郵便はがき

料金受取人払郵便

郡山局承認

4453

差出有効期限
令和7年12月20日迄です。切手をはらずにお出しください。

9631190

郡山市田村町徳定字中河原１

日本大学東北高等学校

同窓会　行

現住所	〒 都道府県				
TEL		携帯			
氏名		生年月日			男・女
卒業年	年3月卒	※いずれかに○をつけてください。 建　設・機　械・電　気・工業化学 普　通・土　木・建　築			

【個人情報の取り扱いについて】

1　ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。

同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。（同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等）同窓会会員名簿の作成。
上記１の使用に当っては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2　個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3　個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4　個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。
個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会（日本大学東北高等学校同窓会（アカシヤ会）へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ
日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原１
http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com
同窓会HP

■発行日：2023年12月25日　http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com
■発　行：日本大学東北高等学校 同窓会　郡山市田村町徳定字中河原１
■編　集：日本大学東北高等学校 同窓会 桜朶編集部